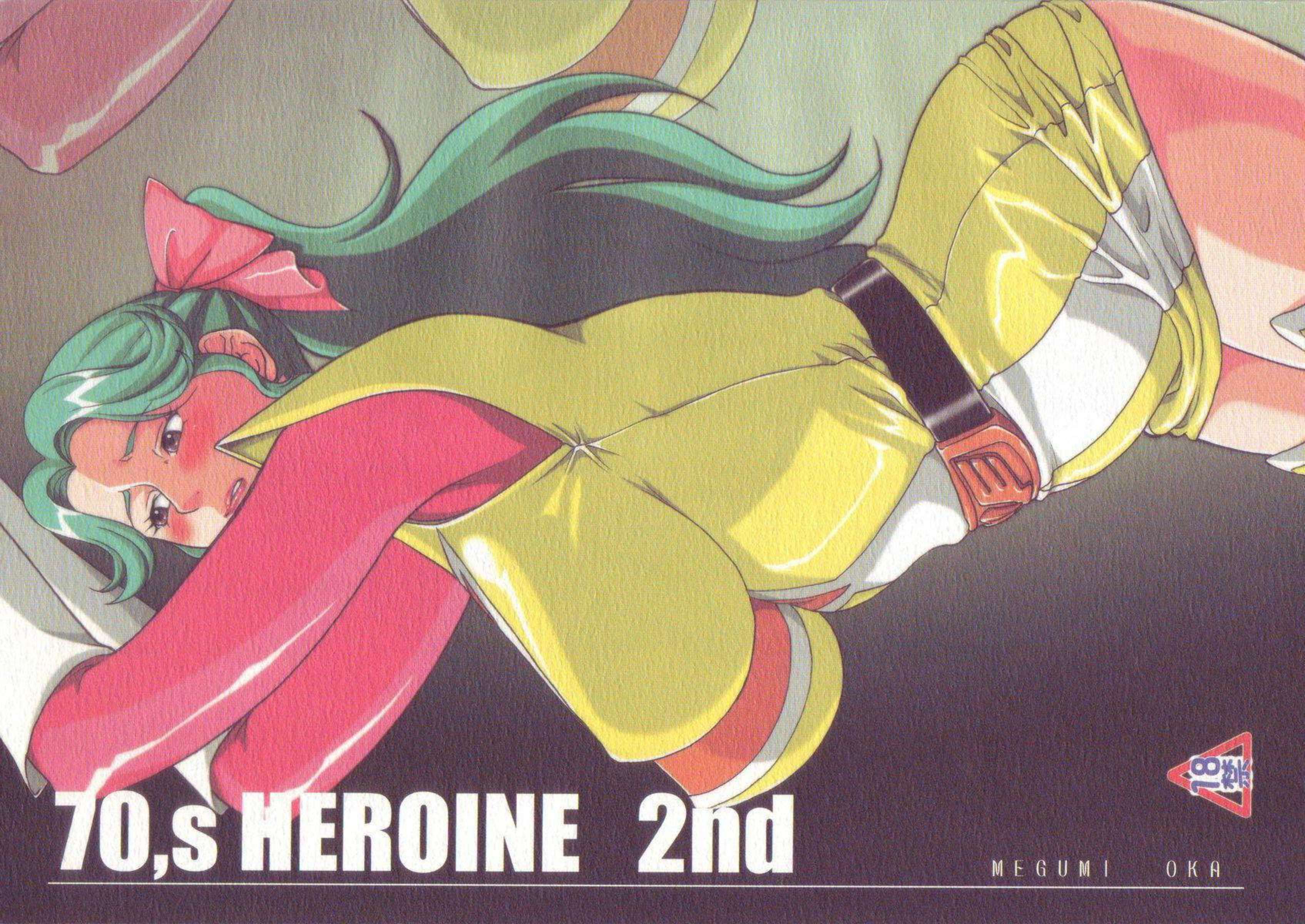


# 70,s HEROINE 2nd

MEGUMI OKA

# 70,s HEROINE 2nd

これはその後救出されるまでの数ヵ月間の記録である。

情報収集目的に敵地底城（単身潜入した私（岡めぐみ）は不覚にも捕ってしまう。

MEGUMI OKA

捕らえた私を最初に尋問したド・ズール
醜い容貌にいやらしい眼光、
梏れ枝の様な皺がれた手で
体の隅々を調べ上げられる。
特に双房への調べは
執拗で両手を使ってで揉みしだき
その感触を楽しむ様な手付きで弄る。

尋問と称し乳房を
万力の様な機械で左右から
押し潰す様に締め上げられる。
拷問を課す彼の眼は
サディスティックな喜びに満ち
苦痛に歪む私の表情を
楽しんでいるかの様に輝く。

口を割ら無い私に対し
ド・ズールの拷問は過激さを増し
乳房は醜く縛り上げられ乳首には手裏剣が錘として括り付けられ
だらしなく垂れ下がる肉塊へと変貌していた。

乳房へ施される執拗な責め苦に
私の体は異常な反応を示し始めていた。
ド・ズールもそれに敏感に気付き更なる攻めを課して来る。

乳房への関心が薄れると
一転してアナルを責立てて来た
日に何度も浣腸を施され
排便の切迫感にもがき
苦しむ姿を嬉々とした
表情で眺め喜ぶ。
日々繰り返される
拷問は既に情報を聞き出すと言う本来の目的
を忘れ、只彼の性癖を満たす行為へと換ってしまっていた。

多量の浣腸液を注入されたお腹は
臨月の妊婦の様に膨らみ
腸壁が激しい蠕動を繰り返す度に
猛烈な便意が下腹を襲う。
括約筋が限界まで開き排泄を要求
するも内で大きく膨らんだアナル栓がそれを
拒み全身からアブラ汗が多量に吹き出して来る。

パンパンに張った下腹部を
踏み付けられる度に
腸内を移動する浣腸液で
ボテ腹が波打つ様に揺れ動き
体中の穴と言う穴が開き切り
あらゆる体液が噴出、
全身を妖しくぬめらせる。

気も狂わんばかりの便意に全身が悲鳴を上げる中、
体の奥底から別の感覚が沸き上がって来るのを感じた瞬間
アナル栓が解き放たれた。
体内を駆け下る排泄の開放感に刺激され
全身を猛烈な快感が走り抜け絶頂の中失神していた。

ルイ・ジャンギャルの大きな影が
次に目覚めた時、
私の眼前を塞ぐ様に覆い被さり
その股間には大い血管が縦横に走る巨大な逸物が
誇らしげに勃起っていた。
どうやら私に飽きただ・・・ズールが彼に
払い下げたのだろう。
値踏みをすかの如く隻眼が体を上から下へと
嘗め回す。

体を引き裂く様な痛みに
声を上げ泣き叫ぶ私を
残忍な笑みを浮かべて陵辱する。
大きな手で尻肉を
鷲掴みにし
物言わぬ瞳でもっと鳴き叫べと
乱暴に腰を突き立てる。

規格外の太さの男根を咥え込んだ陰唇は極限まで
引き伸ばされ、
膣壁はペニスの型に隙間なく押し広げらた。
その先端は子宮口を押し潰し体を貫かんばかりに
更に奥へと捻じ込まれる。

巨体から繰り出される
重い抽挿は私の体を突き上げ
激しく揺さぶる
その度に尻肉が波打ち
肉がぶつかり逢う湿った音が
響き渡った。

引き絞った口元から洩れる苦悶の
声が更に激しい腰使いを促し
双房がその動きに併せて
左右に弾け暴れまわる。

飽く事の無い激しい抽挿は
数時間にも及び、泣き叫ぶ声も
擦れ汗と涙に塗れた私の体は
この巨大なペニスを挿入れる為だけの
只の肉の鞘と化していた。

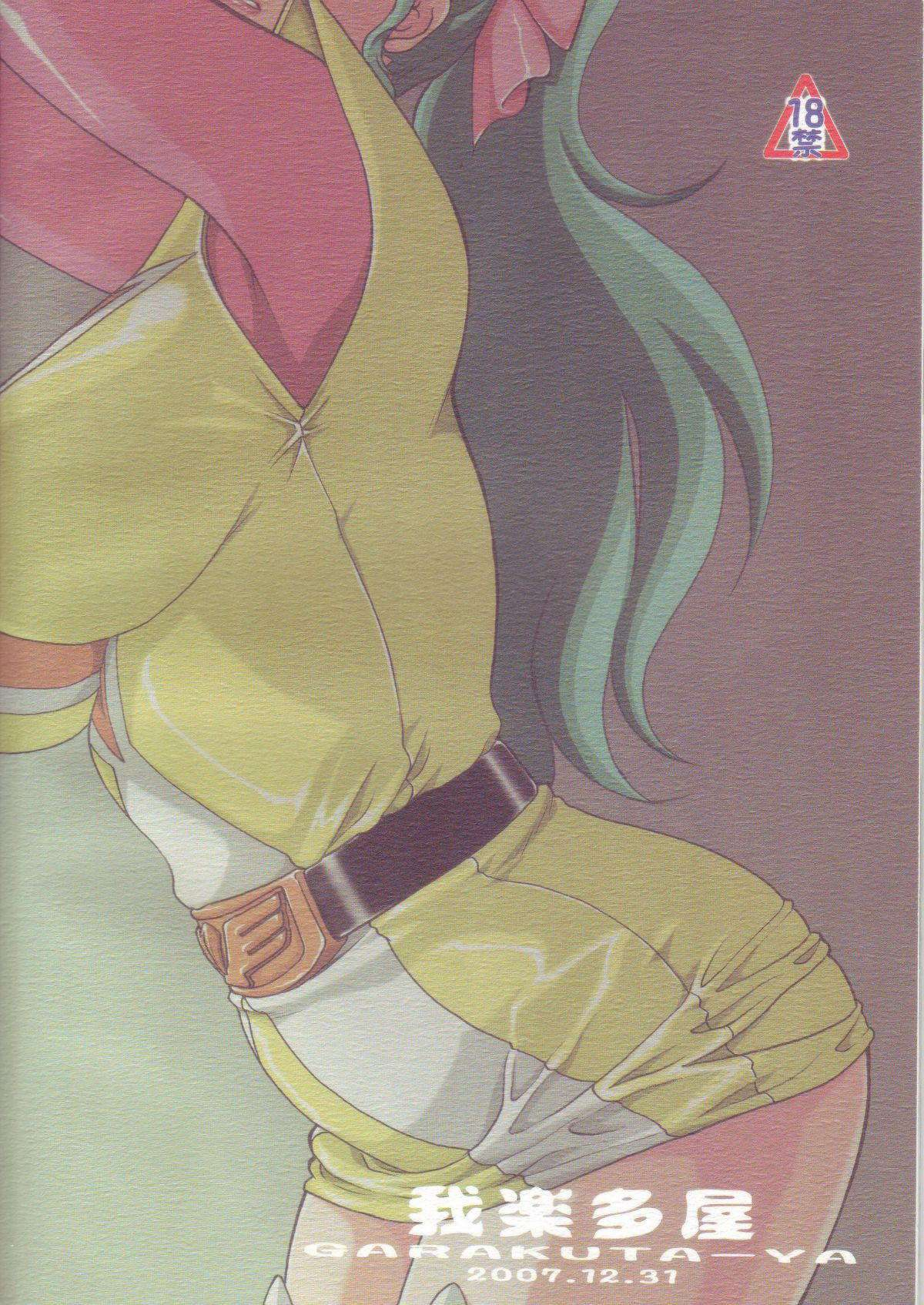
彼の巨大なペニスにすっかり慣らされた私の膣は自然と緩み大きく口開けて喜び向い入れる。
激しく穿たれる愛しい豪棒に白濁した淫汁で濡ら付かせた膣襞を絡み付かせ性急な射精を促し扱き上げる。
ジャンギルの陵辱は連日続きボルテスチームに負ける度にその憂さを晴らそうとあらゆる体位で犯し攻め立て絶頂と言う敗北を要求して来る。

ジャンギャルが獣の様な雄叫びを上げ
力強く脈動するペニスから猛り狂った灼熱のザーメンが
膣奥深くぶちまけられる。
子宮口に精液の熱いシャワーを
浴びながら私も一緒に
押し流される。
子宮が多量の精子に満たされ重みを増してゆく
のを感じながら何度も深い絶頂を迎える。

放心状態の私は城の地下の生物貯蔵庫へと移された。
薄笑い浮かべるカザリーンの手には大事そうに一本の保管器が抱えられている。
これから何が行われるのか？
不安と期待に体が疼き子宮が熱く火照るのを感じた。

カザリーンによって体内に注入された異生物は
子宮に着底、特殊な培養液により数時間
で幼生へと成長
体内を映すエコー画像には異形の胎児が
映し出された。
彼女によるとこれまでの拷問は異生物の育成器としての
適正を確認し、その出産に耐えられるかのテストであり
私はそれに合格したのだと

子宮口を自ら抉じ開け異形の生物が生まれようと
産道を下る、投与された薬のより出産の痛みは無
むしろ胎盤を引き摺り膣壁を掻き分け無理やり
ひり出ようとする胎児が齎す嘗て無い刺激が
強烈な快感となって女芯を焦く。
出産の快楽の虜となった私は救い出されるまでの
間妊娠、出産を繰り返し自らの子宮内で獣士と成るべき異生物を
育て生み出す事になる。


18
禁
我楽多屋
GARAKUTA—YA
2007.12.31